

2023年度 理事長・業務執行理事の業務執行状況

1. 評議員会・理事会等に関する執行状況

【評議員会】

- | | | | |
|-------|--------|------------------|------------------------------|
| 2023年 | 6月 3日 | 第93回定時評議員会招集通知発信 | |
| | 6月17日 | 第93回定時評議員会開催 | |
| | | | ① 2022年度事業報告及び2023年度事業計画承認 |
| | | | ② 2022年度決算承認 |
| | | | ③ 任期満了に伴う役員選任 |
| | | | ④ 定款変更承認 |
| | 10月23日 | 第94回評議員会招集通知発信 | |
| | 11月 4日 | 第94回評議員会開催 | |
| | | | ① 2023年度上半期事業報告承認 |
| | | | ② 2023年度補正予算並びに借入金を含めた資金繰承認 |
| | | | ③ 業務委託契約解除承認 |
| | | | ④ 経理規程改定承認 |
| 2024年 | 2月 2日 | 第95回評議員会招集通知発信 | |
| | 2月10日 | 第95回評議員会開催 | |
| | | | ① 2023年度中間報告及び2024年度事業計画骨子承認 |
| | | | ② 2023年度収支状況並びに借入金を含めた資金繰承認 |
| | | | ③ 訪問入浴事業廃止承認 |
| | | | ④ 定款変更承認 |
| | 2月13日 | 第96回評議員会決議の省略発信 | |
| | 2月20日 | 第96回評議員会決議の省略 | |
| | | | ① 日本YMCA同盟振興資金借入申請承認 |
| | 3月13日 | 第97回評議員会招集通知発信 | |
| | 3月23日 | 第97回評議員会開催 | |
| | | | ① 2024年度事業方針・事業計画承認 |
| | | | ② 2023年度2次補正予算・2024年度予算承認 |
| | | | ③ 役員賠償責任保険加入承認 |
| | | | ④ 辞任に伴う理事選任 |

【理事会】

- | | | | |
|-------|-------|----------------|----------------------------|
| 2023年 | 5月13日 | 第136回理事会招集通知発信 | |
| | 5月27日 | 第136回理事会開催 | |
| | | | ① 2022年度事業報告及び2023年度事業計画承認 |
| | | | ② 2022年度決算承認 |
| | | | ③ 任期満了に伴う役員候補者推薦承認 |

- ④ 評議員選任・解任委員会運営規則改定承認
- ⑤ 評議員選任・解任委員選任
- ⑥ 定款変更承認
- ⑦ 定時評議員会招集承認
- 6月 3日 第137回理事会招集通知発信
- 6月17日 第137回理事会開催
 - ① 任期満了に伴う理事長選定
- 10月 7日 第138回理事会招集通知発信
- 10月21日 第138回理事会開催
 - ① 2023年度上半期報告承認
 - ② 2023年度補正予算並びに借入金を含めた資金繰承認
 - ③ 業務委託契約解除承認
 - ④ 経理規程改定承認
 - ⑤ 評議員会招集承認
- 2024年 1月24日 第139回理事会招集通知発信
- 1月27日 第139回理事会開催
 - ① 2023年度中間報告及び2024年度事業計画骨子承認
 - ② 2023年度収支状況及び借入金を含めた資金繰承認
 - ③ 訪問入浴事業廃止承認
 - ④ 定款変更承認
 - ⑤ 評議員会招集承認
- 2月 6日 第140回理事会決議の省略発信
- 2月13日 第140回理事会決議の省略
 - ① 日本YMCA同盟振興資金借入申請承認
 - ② 評議員会（決議の省略）招集承認
- 2月28日 第141回理事会招集通知発信
- 3月 9日 第141回理事会開催
 - ① 2024年度事業方針・事業計画承認
 - ② 2023年度2次補正予算・2024年度予算承認
 - ③ 役員賠償責任保険加入承認
 - ④ 評議員会招集承認
 - ⑤ 杉田 孝理事長辞任表明
- 3月21日 第142回理事会決議の省略発信
- 3月22日 第142回理事会決議の省略
 - ① 理事候補者推薦承認

2. 監事監査の状況

2023年 5月11日 2022年度業務・会計の監査実施

3. 登記の状況

2023年 6月21日 資産総額変更登記

2023年 7月13日 目的及び業務変更登記

2023年 8月 1日 目的及び業務変更登記

2024年 3月21日 目的及び業務変更登記

(2024年 4月 2日 理事長変更登記)

以上

2024年度 事業計画

事業所名 特別養護老人ホームゆうあいホーム

数値目標	年間ベッド稼働率 95% 入所者の受け入れ環境を整え、安定経営できる稼働率になるように努める。	
昨年度の評価	<p>良かった点・改善すべき点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスが施設内で感染拡大していく中で、残った少ない職員で事故のないよう業務を行った。 ・コスト削減に向けて他職種連携を行い、取り組むことができた。 ・感染症対策を全体として決まった対応ができなかった。 ・人員不足、感染症対策で通常の業務見直し、改善が行えなかった。 	<p>具体的内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大中には、シフト変更、他部署応援、その日の職員体制に合わせて、業務内容を日々見直しながら行った。 ・アンケートを活用し、全職員の意見をくみ上げながら業務を行った。 ・無駄な備品等を他職種と話し合い、できる限りなくしていくよう取り組めた。 ・部署ごと、個人でも感染者および非感染者の対応において、マニュアルの徹底が行われていない部分があった。 ・人員不足、感染症対策での多忙を理由に通常の業務改善の意識がなかった。
今年度の重点目標	<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状の稼働率から目標の稼働率を目指していく中で、受け入れ環境を整える為に業務見直しを行う。 ・新型コロナウイルス等の感染症に対する対応マニュアルの周知徹底を行う。 ・多職種連携にて施設ケアプランの作成を行う。 	<p>具体的な計画・方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本館、新館と個別にだけでなく、特別養護老人ホームとして連携を取りながら、業務見直し、改善を進めていく。 ・指揮命令者を明確にし、指示にしたがって全員が対応していく体制を作る。 ・施設ケアマネージャーを交代し、ケアマネージャーを中心に他職種で連携しながら、定期的なケアカンファレンスを行う。

2023年度事業所別事業報告書

ゆうあい短期入所生活事業所（介護予防・障がい）

基本方針		達成状況
基本方針	利用者の人格を尊重し、常に利用者の立場に立ったサービスの提供に努めることを基本とする。	利用者の立場に立ったサービス提供に努めた。
	利用者及びその家族のニーズを的確に捉え個別に介護サービス計画を作成し、利用者が必要とする適切なサービスを提供する。	事前アセスメントをもとに個別援助計画を作成した。受け入れ時、その都度本人又は家族に個別援助計画書を説明した
	利用者のみならず家族介護者からの要望や評価を聞いてより良い処遇を実現するよう努める。	サービス担当者会等で利用者、家族から要望等を聞き、処遇に反映できるようにした。
	事業実施にあたっては、関係市町村・地域の保健・医療・福祉サービスの提供に努める。	サービス担当者会等で情報交換を行った。
重点計画		達成状況
介護サービス	①個別援助計画書作成と情報共有	①新規の申し込みについては、事前面接の情報収集で個別援助計画書を作成した。また、身体の状態変化に合わせて見直した。
	②予約受付・ベッド調整・受け入れ	②ケアマネジャー、家族からの申し込みに対しベッドの調整を行った。また利用者の状態を考慮して居室を決めた。
	③利用中の事故・経過報告書	③経過報告書は12件（昨年度13件）、転倒・すり落ち11件（昨年度10件）その他1件
	④身体拘束	④ベッド4本柵が9名（昨年度7名）。
	⑤障がいショートステイ	⑤今年度はなし。実地指導（障がいショートステイ）があった。
経費削減	①備品や消耗品の見直し	①予防マットやセンサーマット等の備品や消耗品の見直し等、特養と連携し支出削減に努める。
チームケアと家族・地域支援	①家族との連携	①新規の面会時、家族連絡表等で情報交換に努めた。また緊急時は家族と連絡を取りながら対応した。
	②居宅との連携	②ケアマネジャー、家族からの申し込みに対しベッドの調整を行った。また利用者の状態を考慮して居室を決めた。
	③地域連携室との連携	③退院後、施設入所予定の利用者をショートステイで受け入れた。
	④主治医との連携	④開業医の場合、特に夜間や土日の緊急時の対応の確認を行った。緊急時においては広島西医療センターの緊急ネットワークを利用した。
	⑤災害時対応	⑤今年度は福祉避難所の開所はなかった。
	⑥措置対応	⑥今年度はなかった。
健康管理	①感染症対策	①コロナ・インフルエンザ等の感染症については手指消毒、マスク着用や換気、感染リスクの低減に努めた。
研修・学習		
事業所利用率	①今年度は平均稼働率76.2%。(昨年度60.4%) ②連続30日以上：14人 ③認定期間半数以上：なし	

2023年度事業所別事業報告書

（ デイサービスセンターゆうあいホーム ）			
基本方針	<p>基本方針</p> <p>①利用者のADL、社会性の維持向上を図ると共に家族の介護負担の軽減を図る援助を実施。</p> <p>②業務改善を随時行い経費削減に取り組んでいく。</p> <p>③利用者を中心に取り巻く環境に対し気持ち良く過ごして頂く様子を傾聴し対応していく。</p> <p>④利用者の体調管理について適宜、主治医・家族・ケアマネジャー等と連携を取り情報収集を行う。</p> <p>⑤職員のスキルアップを図る為各種研修会に参加し、研修参加者の伝達講習の実現を図る。</p> <p>⑥地域社会との関わりと実習生の受け入れを積極的に行う。</p>	<p>達成状況</p> <p>担当ケアマネジャーの作成した計画書に基づいた個別の援助計画書の作成。随時カンファレンスを行いケアの統一を図れるよう定期的な評価を行った。</p> <p>不要な電気は切る、エアコンの使いはじめの設定温度を意識する等節電に努めた。</p> <p>利用者さん同士の間関係などを考慮し席の配置など希望に沿い対応した。</p> <p>朝送迎時に家族へ体調確認と体温測定を行い、不在の場合は通いの連絡帳を活用し情報収集を行った。</p> <p>施設内研修は開催されなかったが、オンライン研修に参加し伝達講習を行った。</p> <p>地元の公民館へ定期的に作品展示を行った。今年度は実習生の受け入れはなかった。</p>	
	介護サービス	<p>重点計画</p> <p>①利用者に満足ゆくケアの提供（利用者の役割や居場所作り）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス計画書に添った個別援助計画の作成。ケアの統一と共にカンファレンスを行い評価していく。 ・職員は利用者に尊厳をもって接し、居心地いい居場所作りと役割という生きがいを提供できるような個別ケアの実施。 ・室内の環境整備で転倒のリスクの軽減を図る。 	<p>達成状況</p> <p>担当ケアマネジャーのサービス計画書に沿った個別援助計画書を作成しケアの統一を図った。</p> <p>利用者が得意分野の洗濯畳やテーブル拭き、テイルーム展示用の貼り絵制作、廃棄書類の紙契約作業など役割を持ち過ごしてもらった。唯、一部の方なので全利用者の居場所作りに努めて行く。また、利用者に対し声掛けや呼び方が馴れ馴れしくならないよう注意した。</p> <p>以前から要望のあった、訪問美容は本年度145名の方の利用があった。</p> <p>テイルーム内の整理整頓を行い車椅子やシルバーカーが乱雑になることなく転倒予防に努めた。</p>
		経費削減	<p>②経費削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務改善と共にコスト意識を持ち経費削減に努める。 ・具体的なアイデアを出し実践していく。
	健康管理	<p>③チームケア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者を取り巻く多職種との連携を密に図り信頼関係を構築し本人を支えていく。 	<p>サービス担当者会議等で他職種で情報共有を図りより良いサービスの提供に努めた。</p>
		④利用者の体調管理	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の身体状況を把握・観察し、特変があれば家族・主治医と連携し早期発見に努める。 ・1ヶ月毎に体重測定を実施し推移を連絡帳にて家族・ケアマネジャーに報告。 ・利用者のコロナワクチン・インフルエンザワクチン接種の管理と基礎疾患がない方には接種を勧める。 ・緊急時対応マニュアルに添い、介護職員と連携し最善の対応に努める。疾患的に緊急事態が生じると予測される利用者に関しては主治医、家族と相談し対応する。 ・引き続きレクリエーションの時間に看護師より感染対策の指導や体操、体の仕組みなどの講義を行っていく。
	研修・学習	<p>⑤人材育成（魅力ある職員になる為に）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種の研修の参加を促し、参加者には伝達講習の機会を作り業務に活かしていく。 	<p>3月に施設内で開催された「介護現場における感染対策について」に3名「認知症研修」に1名参加。</p> <p>オンライン研修に参加した職員が朝のミーティング時にガウンテクニックの実演で伝達講習を行った。</p>
実習の受け入れ等	<p>⑥地域社会との関わりと実習生の受け入れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に利用者の作品をコミュニティサロンに展示し取り組みを地域の人に見ていただく。 ・実習生指導により個々のスキルアップに繋げていく。 ・「ゆうあいデイ便り」の見直しを行い、配布を通して毎月の活動を伝える。 ・地元大竹の保育園児と手紙のやり取りや、壁画の貼り絵作品の交換を定期的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・玖波コミュニティサロンに利用者の作品を5回展示した。 ・敬老会・クリスマス会で小人数のボランティアの方に参加して頂いた。 ・コロナ感染予防の為実習生の受け入れはなかった。 ・月1回、機関紙を配布し利用者の様子や来月の行事予定を伝えた。 ・近隣保育園の園児さんとはがきのやり取りをし交流を図った。 ・7月に大竹市社協主催のふれあい夏祭りが開催できた。 	
事業所利用率	<p>来年度の事業所目標登録者数・・90名 1日の平均利用者数・・27名</p>		

2023年度事業所別事業報告書

部門 (訪 問 介 護)

		基本方針	達成状況
基本方針	・在宅において安心した生活維持できるよう心を込め充実したサービス提供をする	・利用者、家族、介護ニーズや状態に即した介護、家事サービスを提供した。	・利用者がこれからの人生を住み慣れた「家」において安心して暮らしていただけるように
	・収益の確保	・月間平均登録者数を増やすため各居宅へ空き情報の提供をした。	
介護サービス	重点計画	達成状況	
	・障害総合支援サービス	・QOL向上を目指して支援と自立した生活を目指す援助した。	
		・身体障害居宅受給証のサービス支給量を考慮して本人、家族の意見・意向を取り入れた個別援助計画を作成して居宅身体、居宅家事サービスを提供して、家族、相談員と連携して安心したサービスを提供した。	
	・総合事業	・要支援状態の維持若しくは改善を図り、要介護状態になることを予防し、自立した日常生活を営むことができるよう支援した。	
	・居宅サービス計画と個別援助計画の一体となるサービス提供	・サービス提供責任者が居宅サービス計画書を基に、利用者及び家族、介護者のニーズを的確に把握し、利用者に身体的精神的に自立した暮らしをしていただけるよう、効率的な個別援助を作成した。	
経費削減	・コスト削減	・物品はあるもので代用できる物は代用した。代用できず購入する場合は安いものを購入	
	・節電	・事務所に誰もいない時は電気・冷暖房を切り訪問した。	
チームケアと家族支援	・情報の共有化とケアの向上	・サービス担当者会議を基に、主治医、ケアマネージャー、利用者、家族、サービス関連機関との情報共有を密にして、それぞれの立場で責任を持ち、サービス向上を図った	
事故・感染対策	・予防に努める	・事故・感染対策委員会へ出席	
	・事故防止	・常にマスク着用、必要に応じて手袋・シールド・予防着着用、各自アルコール持参	
研修・学習	・各研修に参加する	・Webの研修に参加した。(身体拘束)	
	・業務の向上を図る為の情報資料を利用し、ヘルパーとして自覚を持ち、自己研鑽に努める。	・部署内でコロナ感染について、勉強会を行う。	
事業所利用率			

2023年度事業所別事業報告書

部門 (養護老人ホーム ゆうあいの里)	
基本方針	達成状況
その人らしい生活の支援・個別援助の実践。	入居者のアセスメントのもと、適切なケアプランを作成し個別援助に心がけた。多職種連携を図り、サービス担当者会議を開催し、それぞれの専門的視点からの意見を集めケアの向上を目指した。ケアスタッフ、医務、相談員、計画作成担当者等の多職種の連携がとれていた。状態に変化のあった入居者に対してはその都度、アセスメントのもと他職種の協力を得て、ケアプランの見直しを行いご本人やご家族の了承を得てサービス提供を行った。
チームワーク・チームケアの強化。	サービス担当者会議や毎日の引継ぎミーティングを通して、入居者への支援についての意識統一に努めた。ケアスタッフの出勤状況によりケアカンファレンスへの参加が出来ない状況があったが、少しずつ改善傾向にある。ケアスタッフの引継ぎノートを活用し、スムーズに引継ぎが行えた。統一したチームケアを実施する為、状態に応じた個別援助を作成した。
施設生活での生きがい作り。	大竹市が行う、花いっぱい運動に参加しお花の好きな方に声掛けを行い、お花の植え付けを行った。施設内でお花を沢山育てる事で癒しの空間を作れるよう心掛けた。園芸クラブも三年目を迎え、沢山の野菜を収穫する事が出来た。入居者の生きがいに繋がって行けるよう参加者数を増やして行きたい。少人数ではあるが作品作りの取組みに関わって頂いている。出来上がった作品を施設内に飾り、達成感を味わって頂いた。
経費削減への取組。	排泄介助間隔の見直し、洗濯洗剤の見直しにより経費削減は意識して行った。使用物品を詰め替えに変更する事で経費削減する事が出来た。必要のない場所の電気やエアコンは極力消して回り節電に努めた。
重点計画	達成状況
<ul style="list-style-type: none"> スタッフのコミュニケーションを図り統一したケアの実現 施設生活の質の向上。 行事、レクリエーション 感染予防 	<ul style="list-style-type: none"> スタッフ間のコミュニケーションを図り、報告連絡相談を徹底した。その事により、情報の共有に努めケアの統一を心がけた。 作業面や介護面でわからない事をそのままにせず、スタッフ間でしっかりとコミュニケーションを図りケアの統一を心がけた。 今後、個別援助計画を作成し、もっと具体的なケアを行って行けるようにする。 自立の方と介護の必要な方が一緒に施設で生活されており、介護サービスを受けている方への対応が中心になっている。精神的ケア、その人にあった環境作りは十分に達成できていない。 入居者の要介護度の軽減に伴い、遠足や外出支援の検討を行ったが、コロナ禍で実施出来なかった。 感染症予防 インフルエンザ予防接種 47名接種、感染者なし。 新型コロナウイルス感染予防の為、施設内でのマスク着用を徹底し、一年中館内消毒を実施した。しかし、9/22～10/19まで入居者31名、スタッフ8名、給食職員3名、合計42名の感染があり、大きなクラスターとなってしまった。感染終息後、職員全体で感染対応への評価反省を行い、次回の感染に備えた。保健所の方に来て頂き、直接指導を受けた。 通院や急用以外の外出を控えていただくよう協力依頼を行った。 外出から帰られた時や食事前に手洗いを促し実施した。
チームケアと家族支援	<ul style="list-style-type: none"> スタッフ間でしっかりとコミュニケーションを図り、医務、栄養士、訪問看護、生活相談員、計画作成担当者と定期的なカンファレンスを開催し、積極的に意見交換を行い入居者のケアの改善、介護統一を図った。 入居者に状況や病状の変化があった場合、ケアの相談やケアカンファレンスに参加していただけるように連絡した。 外部の福祉用具貸与事業所との連携も密に行い、入居者個人が必要な福祉用具の選定、スムーズな利用につなげた。 他職種との連携もでき、サービス提供ができた。
健康管理	<ul style="list-style-type: none"> 嚥下状態の悪い人は姿勢を正しくし、小皿に小分けし少量ずつ摂取するよう傍で見守りを行う。食事形態の見直しを栄養士と検討。栄養補助食品の取り入れ検討。 食事時にお茶を全量飲みきらない方も多く、水分摂取の目的からも声掛け、水分量の確認をするようスタッフに指導を行った。 入居者の高齢化に伴い、車椅子や歩行器の使用が増加。訪問看護と連携を図り、リハビリ指導を行い筋力低下予防に努めADLの向上を図った。 入浴時脱衣所まで手引き歩行にて筋力低下予防に努めた。また、皮膚観察を行い軟膏塗布、かき傷や発赤が悪化していれば皮膚科受診を行った。 年間1回、歯科検診施行。 年間2回、健康診断施行。異常のあった方は嘱託医の指示にて精密検査を施行した。
研修	<ul style="list-style-type: none"> 専門的知識と技術の習得 新型コロナウイルス感染症の影響により、法人内研修を自粛したため研修へ参加する事ができなかった。
実習生	<ul style="list-style-type: none"> 実習生の受け入れ
事業所利用率 (目標)	<ul style="list-style-type: none"> 措置費収入のための算定条件である1日付け入居者数満床を目指す。 毎月1日付け入所者50名。 特定施設での収入目標として、人件費の採算が取れるように、毎月400万円(年間4800万円)を達成する。
新年度に向けての重点実施項目	<ul style="list-style-type: none"> 専門的知識と技術の習得。 スタッフのコミュニケーションを図り統一したケアの実現。 介護統一のための多職種連携。 施設生活の質の向上。施設訪問、クラブ活動の再開。生きがい作り。 収益の確保。 経費削減。

2023年度事業所別事業報告書

部門 (居宅介護支援事業所 ゆうあい)	
	達成状況
基本方針	<p>基本方針</p> <p>(1) 要介護・要支援者等の依頼を受け、利用者の心身の状況、置かれている環境をアセスメントし、ご利用者及びご家族等の意向に添ったサービスを、複数の選択肢から選定していただき、要介護あるいは要支援状態にある人に対して適正なサービスが提供されるよう、介護サービス事業者等の関係機関との連絡調整を行ない、利用者の能力に応じ自立した日常生活ができるように配慮して支援する。</p>
重点計画	<p>重点計画</p> <p>【居宅サービス計画（ケアプラン作成）目標件数】 *要介護1, 2 : 900人（居宅介護支援費 I i 1 : 1,076単位/月） *要介護3, 4, 5 : 300人（居宅介護支援費 I i 2 : 1398単位/月） *初回加算 60人（300単位/月）</p>
居宅介護支援	<p>達成状況</p> <p>令和5年4月～令和5年12月までの給付管理で計算。 *要介護1, 2 →660人（昨年度 同時期：676人）（目標900人） *要介護3, 4, 5→230人（昨年度 同時期：240人）（目標300人） *初回加算→36人（昨年度46人）（目標 同時期：60人）（目標60人） 今年度は、昨年度の同時期と比較しても、いずれも減少しており、未達成に終わった。</p>
経費削減	<p>①エアコンの適正使用。 ②残業調整</p> <p>①日中、外出時は、エアコンは使用しないため、電源を切っている。 ②毎月の残業時間は、ほとんど減少が見られない。訪問時間の調整、業務の効率化を各個人が考え、人事評価時の面談において、具体的な対策を聞き出し、実行できるよう、意識する。</p>
チームケアと家族支援	<p>①24時間連絡体制の継続 ②法人内の他事業所との連携強化</p> <p>①緊急時の連絡先は、管理者の仕事用の携帯電話と定め、緊急時の対応を統一している。また、出勤日はホワイトボードを活用し、各自のタイムスケジュールを明らかにしておくことで、緊急時には、速やかに連絡がとれる体制を整えている。他にも各自、ショートメールやLINE等円滑に連絡できる方法を活用する。 ②特定事業所集中減算：訪問介護ゆうあい→11.9%（紹介1位事業所：70%）、ゆうあいホームデイサービス→36.5%（紹介2位事業所：28%） 特に訪問介護ゆうあいへの紹介率減少が大きく、法人内の新規紹介8, 9月と新型コロナウイルス感染症に罹患し、5日間の休養をすることになる。各自が仕事用携帯電話を携帯し、自宅から仕事の日程調整を行う。また、グループラインで連絡を取り合い、休み期間中の状況把握に努めた。来年度は、健康管理に努めたい。</p>
健康管理	<p>④ 大竹市介護支援専門員連絡協議会 主催の研修参加 *5, 7, 11, 3月 大竹市多職種連携協議会 主催の研修会 *6, 2月 大竹市介護支援専門員連絡協議会・大竹市多職種連携協議会共催の事例研修会 *9, 1月 ケアプラン点検（大竹市役所 地域介護課 介護高齢者係） *11～12月</p> <p>*5月（災害研修）：マイタイムラインを作成し、災害時のタイムテーブルを把握*6月（ハラスメント研修）：身近に起こりうるハラスメントの予防と対策を学習 *7月（ICT研修）：ZOOMを使用し、各自の課題克服に向けて研修を受講。 *9月（着取り研修）：ワールドカフェ方式の受講により、多様な意見を吸収。 *11月（事例発表）：グループワークにより、各事例に対し掘り下げて学ぶ。 *1月（主任CM研修）：人材育成について *2月（まるっと大竹：地域作り）：欠席 *3月（支援経過記録の問題点）：運営基準減算を防止する記録の取り方について</p>
研修	
事業所利用率	<p>3月で一名退職するため、10月より新規利用者の受け入れを中止。10月時点で要支援含む33名の担当利用者のうち、30名を他の居宅介護支援事業所及び包括支援センターへ引き継いだため、利用率は大幅に下がった。</p>

2023年度事業所別事業報告書

部門 (相談支援センターゆうあい)											
基本方針	<table border="1"> <thead> <tr> <th>基本方針</th> <th>達成状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1、相談支援にて本人、御家族との信頼関係を高め、問題点に対して迅速に対応する。</td> <td>モニタリング等にて、本人、御家族との面談や、事前に各サービス事業所からの情報を通じて課題、問題点を把握し各サービス事業所と連携し早急に対応し問題解決に繋がった。</td> </tr> <tr> <td>2、大竹市自立支援協議会事業所部会を通じて、勉強会への実施、各事業所の課題に対し大竹市における環境全体の問題として情報を共有し、行政と連携し課題解決に繋げていきたい。</td> <td>本年度、事業所部会の代表を交代したが、新代表への情報の引継ぎ、定期的に事業所部会へ参加し、勉強会への参加、各事業所との情報交換をおこない問題の共有を図った。</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	基本方針	達成状況	1、相談支援にて本人、御家族との信頼関係を高め、問題点に対して迅速に対応する。	モニタリング等にて、本人、御家族との面談や、事前に各サービス事業所からの情報を通じて課題、問題点を把握し各サービス事業所と連携し早急に対応し問題解決に繋がった。	2、大竹市自立支援協議会事業所部会を通じて、勉強会への実施、各事業所の課題に対し大竹市における環境全体の問題として情報を共有し、行政と連携し課題解決に繋げていきたい。	本年度、事業所部会の代表を交代したが、新代表への情報の引継ぎ、定期的に事業所部会へ参加し、勉強会への参加、各事業所との情報交換をおこない問題の共有を図った。				
	基本方針	達成状況									
1、相談支援にて本人、御家族との信頼関係を高め、問題点に対して迅速に対応する。	モニタリング等にて、本人、御家族との面談や、事前に各サービス事業所からの情報を通じて課題、問題点を把握し各サービス事業所と連携し早急に対応し問題解決に繋がった。										
2、大竹市自立支援協議会事業所部会を通じて、勉強会への実施、各事業所の課題に対し大竹市における環境全体の問題として情報を共有し、行政と連携し課題解決に繋げていきたい。	本年度、事業所部会の代表を交代したが、新代表への情報の引継ぎ、定期的に事業所部会へ参加し、勉強会への参加、各事業所との情報交換をおこない問題の共有を図った。										
介護サービス	<table border="1"> <thead> <tr> <th>重点計画</th> <th>達成状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1、相談支援において、本人、御家族との信頼関係の構築と本人らしい生活が実現できるサービス等利用計画の提案。</td> <td>1、モニタリングを通じて、本人、御家族の問題点、課題に対し迅速に対応し、各事業所との連携、情報共有し問題改善に努めた。</td> </tr> </tbody> </table>	重点計画	達成状況	1、相談支援において、本人、御家族との信頼関係の構築と本人らしい生活が実現できるサービス等利用計画の提案。	1、モニタリングを通じて、本人、御家族の問題点、課題に対し迅速に対応し、各事業所との連携、情報共有し問題改善に努めた。						
	重点計画	達成状況									
1、相談支援において、本人、御家族との信頼関係の構築と本人らしい生活が実現できるサービス等利用計画の提案。	1、モニタリングを通じて、本人、御家族の問題点、課題に対し迅速に対応し、各事業所との連携、情報共有し問題改善に努めた。										
経費削減	相談支援における収入の安定的確保と光熱費の無駄を削減 新規件数、加算の積極的に取得をおこない、年間収入前年比：106.1%であった。また、事務所の無駄な電気を、こまめに電源を切り、出来る範囲での経費削減に努めた。										
チームケアと家族支援	相談支援にて本人、御家族の課題、問題点をチームで把握し、意見交換をおこない問題解決に繋げる。										
健康管理	感染症知識を理解し、感染症予防の徹底に努めた。 感染症知識を感染症研修等にて学び、基本的な感染症予防対策、手指の手洗い、適宜消毒、マスクの徹底により感染症予防に努めた。										
研修・学習	自己研鑽の為、法人内の研修に積極的に参加。 自己のレベルアップの為、法人内の感染症研修、ハラスメント研修、事業所部会での勉強会積極的に参加し自己研鑽に努めた。										
実習の受け入れ等											
事業所利用率	相談支援において、新規、加算の積極的に取得に努め、年間収入前年比106.1%であった。										

2023年度事業所別事業報告書

部門 (訪問看護ステーション ゆうあい)											
基本方針	<table border="1"> <thead> <tr> <th>基本方針</th> <th>達成状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1、利用者の生活に視点を置き、QOL向上を主軸にした訪問看護サービスを提供する。</td> <td>利用者の状態変化に応じ、スタッフ会議でアセスメントし、対策を検討。目標をタテケアを実施したことで、利用者のADL、QOL向上に繋げる事が出来た。</td> </tr> <tr> <td>2、主治医の指示書に従い、法令遵守をしながら必要な看護や医療処置、リハビリ等を行う。</td> <td>主治医の指示書に従い、個別性に応じた訪問看護計画を立案し訪問看護活動を実施した。</td> </tr> <tr> <td>3、エビデンスやガイドラインの変化に応じた専門知識、技術の取得に努める。</td> <td>隙間時間を活用しWeb研修での学習の継続、外部研修に参加し知識の習得に努めた。</td> </tr> <tr> <td>4、月間利用者数 28名、月間利用回数 195回 (医療保険対象者 30回)とする。</td> <td>平均月間利用者数 27名 平均月間延べ回数 189回 (医療保険対象者 40回)</td> </tr> </tbody> </table>	基本方針	達成状況	1、利用者の生活に視点を置き、QOL向上を主軸にした訪問看護サービスを提供する。	利用者の状態変化に応じ、スタッフ会議でアセスメントし、対策を検討。目標をタテケアを実施したことで、利用者のADL、QOL向上に繋げる事が出来た。	2、主治医の指示書に従い、法令遵守をしながら必要な看護や医療処置、リハビリ等を行う。	主治医の指示書に従い、個別性に応じた訪問看護計画を立案し訪問看護活動を実施した。	3、エビデンスやガイドラインの変化に応じた専門知識、技術の取得に努める。	隙間時間を活用しWeb研修での学習の継続、外部研修に参加し知識の習得に努めた。	4、月間利用者数 28名、月間利用回数 195回 (医療保険対象者 30回)とする。	平均月間利用者数 27名 平均月間延べ回数 189回 (医療保険対象者 40回)
	基本方針	達成状況									
	1、利用者の生活に視点を置き、QOL向上を主軸にした訪問看護サービスを提供する。	利用者の状態変化に応じ、スタッフ会議でアセスメントし、対策を検討。目標をタテケアを実施したことで、利用者のADL、QOL向上に繋げる事が出来た。									
	2、主治医の指示書に従い、法令遵守をしながら必要な看護や医療処置、リハビリ等を行う。	主治医の指示書に従い、個別性に応じた訪問看護計画を立案し訪問看護活動を実施した。									
3、エビデンスやガイドラインの変化に応じた専門知識、技術の取得に努める。	隙間時間を活用しWeb研修での学習の継続、外部研修に参加し知識の習得に努めた。										
4、月間利用者数 28名、月間利用回数 195回 (医療保険対象者 30回)とする。	平均月間利用者数 27名 平均月間延べ回数 189回 (医療保険対象者 40回)										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>重点計画</th> <th>達成状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>主治医、その他関連するサービス事業所との連携強化を図り、利用者、家族が安心して療養生活が継続出来るよう支援していく。</td> <td>利用者の心身の状態を把握し、主治医、ゆうあいの里 看護師、ケアマネージャーに報告、相談。早期に医療機関受診する事で状態悪化を防ぎ、ADL維持に繋がった。また、利用者の訴えを丁寧に聞き取る事により改善可能点を見つけQOL向上に努めた。</td> </tr> <tr> <td>専門知識、技術の習得に努める。</td> <td>看護情報配信Webサイト、地域医療従事者研修の参加、訪問看護eランニング (訪問看護人材養成基礎カリキュラム)受講し、知識、技術の取得に努めた。</td> </tr> <tr> <td>働きやすい職場環境を整える</td> <td>活発なコミュニケーションを図り、率直に意見交換が出来る風通しの良い職場環境に努めた。また、個々の家庭環境に応じて休暇が取得しやすいよう業務改善に努めた。</td> </tr> <tr> <td>感染症蔓延時、業務継続が出来る体制を作る。</td> <td>感染状況を確認しながら感染マニュアルに沿ってサービス提供実施した。BCP作成にあたり、Web研修を受講した。</td> </tr> </tbody> </table>	重点計画	達成状況	主治医、その他関連するサービス事業所との連携強化を図り、利用者、家族が安心して療養生活が継続出来るよう支援していく。	利用者の心身の状態を把握し、主治医、ゆうあいの里 看護師、ケアマネージャーに報告、相談。早期に医療機関受診する事で状態悪化を防ぎ、ADL維持に繋がった。また、利用者の訴えを丁寧に聞き取る事により改善可能点を見つけQOL向上に努めた。	専門知識、技術の習得に努める。	看護情報配信Webサイト、地域医療従事者研修の参加、訪問看護eランニング (訪問看護人材養成基礎カリキュラム)受講し、知識、技術の取得に努めた。	働きやすい職場環境を整える	活発なコミュニケーションを図り、率直に意見交換が出来る風通しの良い職場環境に努めた。また、個々の家庭環境に応じて休暇が取得しやすいよう業務改善に努めた。	感染症蔓延時、業務継続が出来る体制を作る。	感染状況を確認しながら感染マニュアルに沿ってサービス提供実施した。BCP作成にあたり、Web研修を受講した。	
重点計画	達成状況										
主治医、その他関連するサービス事業所との連携強化を図り、利用者、家族が安心して療養生活が継続出来るよう支援していく。	利用者の心身の状態を把握し、主治医、ゆうあいの里 看護師、ケアマネージャーに報告、相談。早期に医療機関受診する事で状態悪化を防ぎ、ADL維持に繋がった。また、利用者の訴えを丁寧に聞き取る事により改善可能点を見つけQOL向上に努めた。										
専門知識、技術の習得に努める。	看護情報配信Webサイト、地域医療従事者研修の参加、訪問看護eランニング (訪問看護人材養成基礎カリキュラム)受講し、知識、技術の取得に努めた。										
働きやすい職場環境を整える	活発なコミュニケーションを図り、率直に意見交換が出来る風通しの良い職場環境に努めた。また、個々の家庭環境に応じて休暇が取得しやすいよう業務改善に努めた。										
感染症蔓延時、業務継続が出来る体制を作る。	感染状況を確認しながら感染マニュアルに沿ってサービス提供実施した。BCP作成にあたり、Web研修を受講した。										
事業所利用率											

2023年度事業所別事業報告書

部門 (グループホームふきのとう)		
基本方針	<p>基本方針</p> <p>「私たちは笑顔大切にします」という ふきのとうの基本理念のもと、入居者様の個別ニーズに基づいたケアを充実し、入居者様、ご家族の笑顔を守ることを目指す。</p> <p>個々の活動量を増やし、個別ケアを充実させる。また、入居者様が楽しみを持って生活できることを目指す。</p>	<p>達成状況</p> <p>個々の活動量については十分とは言えないが、食事の準備、片づけなどの当番制を用いて、普段されない方も参加していただいた。この2～3年コロナで一時中止していた小規模多機能の機能訓練体操への参加を再開し促した。</p> <p>また、希望者の買い物援助やレクリエーションの工夫、嗜好品の提供、プリンターでの野菜や花の栽培など楽しみにつながる要望にできるだけ応えられるよう、職員で話し合い、実施した。</p>
	<p>重点計画</p> <p>入居者様の楽しみを増やすため個別の「したいこと」や要望を聞いたり汲み取って、実現に向けて検討、調整してゆく。日々のコミュニケーションから、利用者様、ご家族の望む暮らしを考え、実現のために必要な手立てについて職員ケアカンファレンスを行う。通いが楽しみになるよう、個別に体操や食事、入浴、レクリエーション内容を再考する。</p>	<p>達成状況</p> <p>入居者様9名の担当職員を決め、「食べたいもの」「したいこと」など、訴えがある方はできるだけ沿うように取り組んだが、一人ひとりの個別のケアについてのカンファレンスは一部のみしか実施できなかった。</p> <p>全体行事の「敬老会」「クリスマス会」「ひな祭り会」などはおいしい食事と楽しい出し物などを工夫して好評であった。8月には松ヶ原地区盆踊りが復活し、地元の利用者を中心に夜間に参加していただくことができた。職員の対応が揃わないこともあり、次年度は基本の介護技術やコミュニケーション技術の確認を行いたい。</p>
健康管理	<p>入居者様の健康状態を把握し、変化があれば早期に医療機関等に報告、相談する。重度化が考えられる場合は早期に入居者様、ご家族、医療機関等と予後について話し合い、予め備えられるようにする。</p>	<p>訪問診療の方は定期受診し、その都度相談したが、個別にかかりつけ医にかかっている方は、ご家族に状態を説明したり、受診を促した。また、ご家族が遠方の場合には月1回職員が通院介助している。排便チェックと下剤の調整で排便のコントロールはほぼできている。今年も基本の感染予防にて、職員が感染しても入居者様のコロナ・インフルエンザ感染を防ぐことができた。重度化が予測される方にはご家族に状態説明を行い、今後のことを早期に考えていただくように努めた。</p>
人材育成	<p>業務改善やBCPに取り組み、管理者不在時や不測の事態下でも業務が継続できる仕組みづくりを目指す。主任や中堅職員に認知症介護者リーダー研修の受講ができるようにする。職員業務担当の内容や割り振りを見直し、担当者が変更しても対応できるようマニュアル作りを開始する。介護福祉士、介護支援専門員などの資格取得を勧める。入居者様の重度化により、身体を傷めないように介護技術の更新や新しい福祉用具について学ぶ場を検討する。</p>	<p>主任1名が認知症介護者リーダー研修を受講した。資格取得を促したが受験要件に達していないため受験していないものもあり取得はできなかった。業務担当を見直し、責任を持って担当職務を行うようにしたが、マニュアル作りまでには至らなかった。</p> <p>介護技術や権利擁護などの研修を計画的に実施することが次年度の課題である。</p>
危機管理	<p>年間計画を立てて、感染対応、災害時対応について定期的に職員ミーティングを行う。</p>	<p>感染マニュアルの見直しなどは何度も促したが、全体的・計画的な感染、災害対応、BCPのミーティングが出来なかった。次年度は計画的に実施する。</p>
地域連携	<p>運営推進会議を再開し、地域との情報交換や連携を行い、グループホームの内容充実を目指す 松ヶ原自治会の活動に参加する。 大竹市多職種連携協議会の役員、会員を継続する。</p>	<p>運営推進会議は書面のみ1回、会議5回開催した。また自己評価の結果報告、外部評価を行った。 今年はシフトが組めず、松ヶ原自治会の敬老会、草刈には参加できなかった。 大竹市多職種連携協議会の役員1名、会員1名を継続した。</p>
事業所利用率	<p>ベッド稼働率月平均 2022年度 86.9% 2023年度 目標 95% 実績 96.5% 目標を達成できた。</p> <p>2023年度の入居者の方は比較的健康な方が多いため、退所数が少なかったことと入院期間が少なかったことが目標達成の要因と思われる。 また退去により空き室が出る場合は待機者と速やかに連絡、相談して昨年度よりも空き室期間の短縮を行った。</p>	

2023年度事業所別事業報告書

部門 (小規模多機能ホームふきのとう)	
基本方針	<p>基本方針</p> <p>「私たちは笑顔を大切にします」というふきのとうの基本理念のもと、利用者様の個別ニーズに基づいたケアを充実させ、ご利用者、ご家族の笑顔を守ることを目指す。</p> <p>ご利用者一人ひとりの望む暮らしの実現に向けて、またできるだけ長く在宅生活ができるよう、地域と連携し、検討、調整してゆく。</p>
	<p>達成状況</p> <p>一人暮らし認知症の方の新規者が多くなり、安否確認、与薬確認、買い物援助、食事配達、通院介助等の個別の訪問ニーズが増えているが、できるだけご本人、ご家族の希望に沿って実施できるよう工夫した。</p> <p>また、持病の悪化や家族の介護力不足などにより、小規模多機能のサービスを最大に使っても在宅生活が限界となるケースも増え、ご本人・ご家族とよく検討して、施設入所や入院するまでをサポートした。</p> <p>検討する過程で包括、施設、医療機関、地域等との連携も強化できた。</p>
介護サービス	<p>重点計画</p> <p>日々のコミュニケーションから、利用者様、ご家族の望む暮らしを考え、実現のために必要な手立てについて職員ケアカンファレンスを行う。</p> <p>通いが楽しみになるよう、個別に体操や食事、入浴、レクリエーション内容を再考する。</p>
	<p>達成状況</p> <p>ご本人、ご家族と在宅生活や必要なサービスについてよく話し合った。訪問、通い、宿泊を増やして欲しいという要望が多かったが、希望のサービスの提供が可能か、本当に必要なかを検討し、要望どおりにならない場合は代替え案を提示した。</p> <p>毎朝の職員申し送りでご利用者の状態や状況を説明し、サービス内容についてケアカンファレンスを行った。</p>
危機管理	<p>年間計画を立てて、感染対応、災害時対応について定期的に職員ミーティングを行う。</p> <p>職員業務担当の内容や割り振りを見直し、担当者が変更しても対応できるようマニュアル作りを開始する。</p>
	<p>感染対応、災害時対応の定期ミーティングは一部しか開催できなかった。次年度は計画的に開催する。</p> <p>職員業務担当は割り振りを見直し介護保険請求業務の一部はケアマネ以外でもできるようにした。</p> <p>マニュアル作りは一部着手した。</p>
健康管理	<p>ご利用者の健康状態を把握し、変化があれば早期に医療機関等で検査することなどを利用者様、ご家族に勧めてゆく。</p> <p>重度化が考えられる場合は早期にご利用者、ご家族、医療機関等と予後について話し合い、予め備えられるようにする。</p>
	<p>関わりの中で、ご家族が気づかなかった変化を見つけた場合は積極的に医療機関に受診するよう依頼した。</p> <p>必要に応じて通院に同行し、医師に相談、連携するようにした。</p> <p>重度化が考えられるご利用者について、今後の望む生活、できることなどを話し合った。</p>
人材育成	<p>中堅職員に認知症介護者リーダー研修等の受講ができるようにする。</p> <p>介護福祉士、介護支援専門員などの資格取得を勧める。</p> <p>利用者様の重度化により、身体を傷めないように介護技術の更新や新しい福祉用具について学ぶ場を検討する。</p> <p>訪問や夜勤のできる職員を確保したい。</p>
	<p>介護支援専門員の取得要件に該当する職員がいなかった。認知症介護者リーダー研修の受講は次年度に実施する。</p> <p>大竹市多職種連携協議会に職員が2名入会し、研修や事例検討会に参加した。</p> <p>増加した訪問や泊りニーズに対応できる職員の確保はできなかったため、要望をお断りすることが増えてしまった。</p>
地域連携	<p>運営推進会議を再開し、地域との情報交換や連携を行う。松ヶ原自治会の活動等に参加する。</p> <p>大竹市介護支援専門員連絡協議会の理事を継続する。</p>
	<p>運営推進会議は書面のみ1回、会議5回開催した。また自己評価の結果報告、外部評価を行った。</p> <p>大竹市介護支援専門員連絡協議会の理事を継続した。</p>
<p>登録者月平均2022年度 16.9人 2023年度目標18人、実績18.3人 目標を達成することができた。</p>	
事業所利用率	<p>年間延べ通い数 2022年度 2142人 2023年度 2168人 (横ばい)</p> <p>訪問回数 2022年度 740回 2023年度 1219回 (増加)</p> <p>宿泊数 2022年度 203人 2023年度 123人 (減少)</p>